

クレジットの活用事例

MOL
商船三井

藻場の再生保全支援を目的とした『Jブルークレジット』によるブルーカーボン・オフセットに参画
～「世界初のEVタンカー」回航時CO₂排出量とのオフセットを実施～

2022年03月18日

株式会社商船三井（社長：橋本剛、本社：東京都港区、以下「当社」）は、国土交通大臣認可法人であるジャパンブルーエコノミー技術研究組合（JBE）（註1）が発行するブルーカーボン（註2）を活用したクレジット『Jブルークレジット』（註3）のカーボンオフセット（註4）に参画します。

『Jブルークレジット』は、海藻藻場などの海洋・沿岸生態系が吸収した二酸化炭素（CO₂）であるブルーカーボンを対象とし、気候変動緩和へ向けた取組みを加速するための新たなクレジットとして注目されています。
2020年度から試行が開始され、2回目となる2021年度は、横浜市、周南市徳山下松港、兵庫運河における藻場や干潟の再生活動を通じてクレジットが発行され、本日販売者と購入者に対する証書交付式が開催されました。



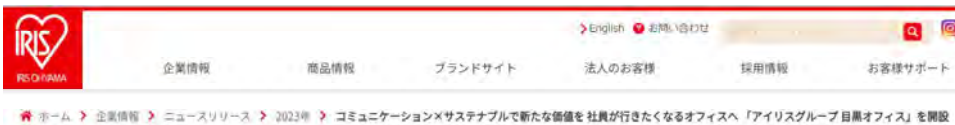
当社が購入したクレジットは、当社グループの旭タンカー株式会社（本社：東京都千代田区以下「旭タンカー」）が新造し今年3月末に竣工予定の世界初のゼロエミッション電気推進タンカー"あさひ"（註5）が、造船所のある香川県丸亀市から給電設備がある神奈川県川崎市まで回航する際に排出するCO₂とオフセットする予定です。今後、本船は再生可能エネルギー由来の電力を動力源とすることで、従来型の船と比べて年間約280トン、60%のCO₂削減（想定値）に寄与します。当社は旭タンカーと協力して内航海運における電気推進船（EV船）の普及に努めます。



商船三井HPより

クレジットの活用事例

◆海洋プラスチックから作られるオフィスチェアのCO₂をオフセット



1. カーボン・オフセット(※5)を実現したサステナブルオフィス

FSC認証(※1)間伐材を活用した什器や海洋プラスチック再生樹脂を採用したオフィスチェア(※2)を配置し、国や関連機関がCO₂の排出量削減量や吸収量をクレジットとして認証する「J-クレジット(※3)」「Jブルークレジット(※4)」の活用により、設置する全ての什器においてカーボン・オフセット(※5)を実現しています。

働く社員の快適性だけでなく、環境問題・SDGsへの取り組みを家具から取り入れることで、生物多様性に貢献します。



アイリスチトセHPより

クレジットの活用事例

◆ イベント開催で排出されるCO₂をオフセット



【東京ドーム】「楽天スーパーナイター」で「ブルーカーボン・オフセット付きチケット」を購入して、選手直筆サイン入りグッズなどが当たる抽選会に参加しよう！

ブルーカーボン・オフセット付きチケット販売中

当日、楽天ブースにブルーカーボン・オフセット付きチケットを提示された方の中から抽選で14名に楽天モバイルパーク宮城の観戦チケットや楽天イーグルス選手直筆サイン入りグッズが当たる！

来場者1人あたり1kgの「ブルーカーボン・オフセット」を実施

楽天グループは、「楽天スーパーナイター」の試合観戦で来場者が排出するCO₂（1人あたり1kgと仮定）を若手県洋野町の「ブルーカーボン」を活用してオフセットします。

洋野町には、海水とウニのエサとなる海藻類が安定的に流れ込みやすくなるよう、人工的に掘られた増殖溝があり、2011年の東日本大震災で津波の被害を受けましたが、その後復興し、深場と地域の漁業を復活させました。その漁業に利用してきた増殖溝を「ブルーカーボン・オフセット」事業にも活用し「カーボン・オフセット」に寄与しています。

「カーボン・オフセットとは

日常生活や企業等の活動で、どんなに努力をしても発生してしまうCO₂（＝カーボン）を他の場所の削減分で埋め合わせ（＝オフセット）する取組を「カーボン・オフセット」といいます。



CO₂吸収源となる若手県洋野町の増殖溝



クレジットの活用事例

◆ イベント開催で排出されるCO₂をオフセット



横浜大会における環境への取組

ワールドトライアスロンシリーズ横浜大会は、横浜開港150周年記念事業として2009年からスタートし、2023年の大会で13回目の開催を迎えました。

横浜大会では、持続可能な大会運営を目指し、「地球環境に優しいトライアスロン大会」を掲げ、大会運営に取り組んでいます。2009年の大会開催初年度には、山下公園前海域の水質浄化実験を行い、海域生物による浄化能力の高い海づくりが重要であることを認識しました。それ以降、横浜市と連携し、各種環境事業に取り組んでいます。

2012大会では、イベントマネジメント国際標準規格「ISO20121(イベントの持続可能性マネジメントシステム)」を我が国で初めて認証取得し、2013大会からは、組織委員会による3年ごとの更新認証へ変更して、認証を継続取得しています。

観戦会場(スイム特設会場)に山下公園前海域を使用していることから、トライアスロン大会を通じて、より多くの方に地球環境、特に海の環境への意識を高めていただくために、ゼロカーボンクレジットを活用したカーボン・オフセット、完走わかめ配付による地産地消、Green Triathlon開催などの取組を推進し、持続可能でより良い世界を目指すSDGs(持続可能な開発目標)の達成に向けて取り組んでいます。



二酸化炭素の排出 * 環境協力費で支援 * 横浜の環境改善

出場者の自動車から発生するCO2を削減して、トヨタの環境改善に貢献する。 観戦の海に海苔を植え、CO2を吸収する。 観戦の海に海苔を植え、CO2を吸収する。 観戦の海に海苔を植え、CO2を吸収する。

地球環境にやさしいトライアスロン大会はみなさんからの環境協力費に支えられています。

*1 観戦場からの自動車や観戦者利用した乗客の1人あたり1kgのCO₂排出を想定しています。なお、観戦者1人1kgのCO₂削減に1クレジットが必要となります。

*2 200円から2000円のクレジット購入が可能です。



IWATE BANK NEWS LETTER

記

1. 本協定の概要

当行、住友商事東北株式会社および洋野町の3者は、包括的な連携のもと、それぞれが有する人的・物的資源を積極的に活用して気候変動対策に取り組むとともに、洋野町海域の水産業振興に資することを目的として、2023年2月24日に「岩手県洋野町における増殖溝を活用した藻場の創出・保全活動に係る包括連携協定」を締結しました。

2. 締結式の内容

開催日時	2023年2月24日(金) 15時30分～
開催場所	洋野町役場種市庁舎 大会議室

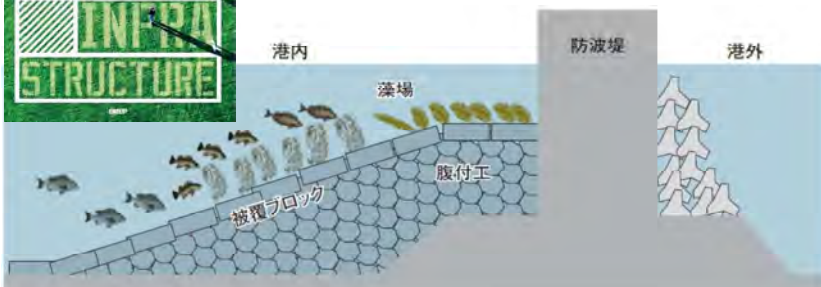


写真左より 住友商事東北株式会社執行役員 木村英樹、洋野町長 岡本正善、当行頭取 岩山徹

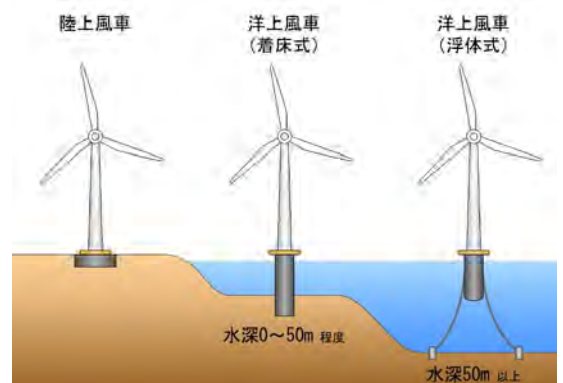
新しい基盤を積極的に活用

- ◆より多くのCO₂を生態系に吸収させる技術開発 (質の向上)
- ◆新たな吸収源の発掘 (数量の増加)

モノ



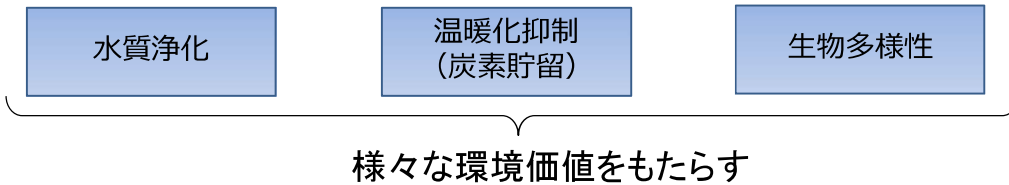
実践版グリーンインフラ (2020)



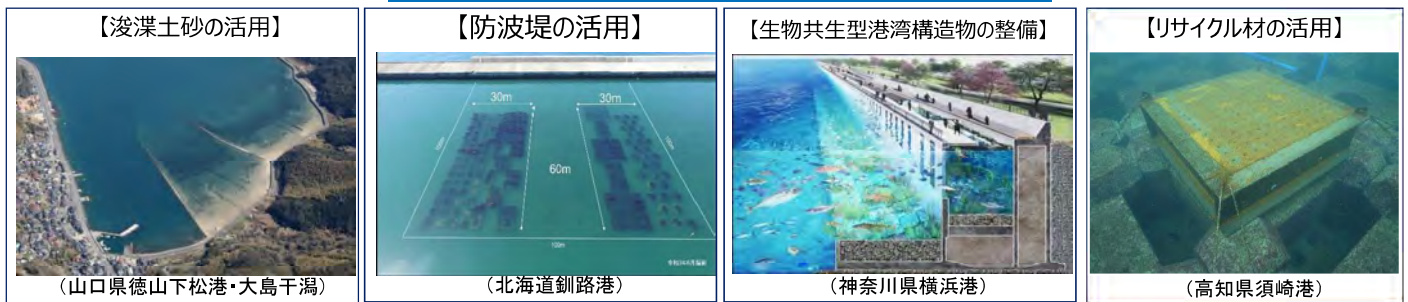
<https://ja.wikipedia.org/wiki>

- 国土交通省では、ブルーカーボン生態系を活用したCO₂吸収源の拡大によるカーボンニュートラルの実現への貢献や生物多様性による豊かな海の実現を目指し、ブルーカーボンの拡大を進めるため、「命を育むみなとのブルーインフラ拡大プロジェクト」今年度よりスタートする。
- これまでも浚渫土砂や産業副産物等を活用し、藻場や干潟の造成等に関する取組を進めてきたが、藻場・干潟等及び生物共生型港湾構造物を「ブルーインフラ※」と位置付け、全国の海へ拡大することを目指し、市民団体や企業の参加を促進するためのマッチング支援及び普及啓発等を進める。
 ※ブルーインフラストラクチャー。CO₂吸収源対策や生物多様性等の様々な課題の解決に貢献するブルーカーボン生態系及びその生息環境を形成する基盤となるもの。藻場・干潟等及び生物共生型港湾構造物。

ブルーカーボン生態系による効果



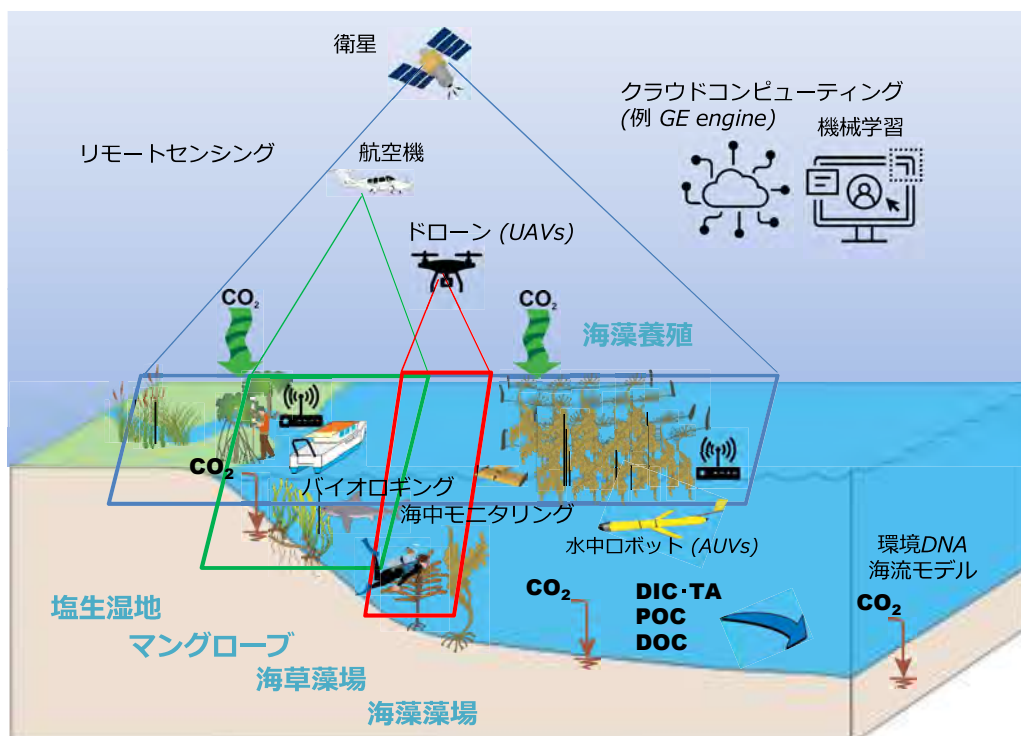
「命を育むみなとのブルーインフラの取組事例」



ブルーカーボンの将来



新しい技術を積極的に活用



モニ



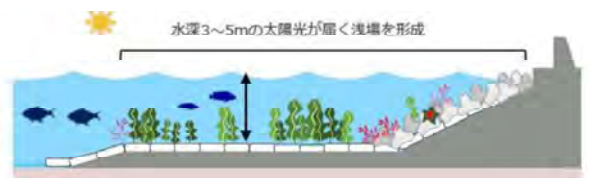
2022年度認証 プロジェクト一覧

神戸空港島におけるブルーカーボン創出プロジェクト



■プロジェクトの概要

神戸市では、平成18年に開港した神戸空港島の造成に際して、周囲の護岸を緩やかな石積みとし、**太陽光が届く浅場を広範囲に構築**したほか、人工的な砂浜や磯浜などを配置することで、豊かな生態系の育成や環境の創造、市民が親しみやすい水辺空間の整備を進めてきました。また、緩傾斜護岸による生態系の育成・創造効果を把握するため、**整備当初からモニタリング調査を実施**しています。



■プロジェクトの特徴・PRポイント

神戸空港島周辺では、延長約6.7kmにわたる大規模な浅場を人工的に構築したことで、多様な海洋生物が生息し、豊かな生態系が育成・創出しています。

周囲の浅場には、シダモクやワカメなどの**藻場が広範囲に繁茂**しているほか、メバルやスズメダイなど多くの魚類も確認されており、豊かな生態系を育む場となっています。また、一年を通して豊富な魚種が釣れる人気の釣り場にもなっており、**市民のレクリエーション空間としても寄与**しています。

本プロジェクトで得られる資金は、神戸港のカーボンニュートラルポート(CNP)形成や神戸空港の脱炭素化に向けた取り組みの一環として、**民間団体によるブルーカーボンの保全・創出活動に対する支援**などに活用していく計画です。



護岸の一部は釣り場として開放され、多くの人々が訪れています。



空港島内の人工海浜では、ウミガメの保護活動が行われました。



シダモク(アカモク)



ワカメ



メバル



スズメダイ



プロジェクト名：山口県下関市特牛地先・磯守ブルーカーボンプロジェクト

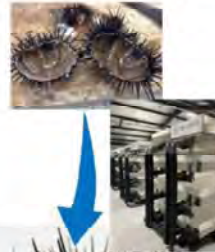
ウニノミクス株式会社・マルヤマ水産有限会社・山口県漁協同組合特牛支店・ENEOSホールディングス株式会社

◆プロジェクトの概要

- 角島周辺の海域ではカジメ類、ホンダワラ類が繁茂しており、海産動物の生息場、産卵基質、幼稚魚の成育場となっています。
- 藻場はウニの食害を受けていて減少傾向にあります。
- これ以上の藻場喪失を防ぐため2021年から食害の原因となっているウニの除去を行いました。そして、ウニを除去したことで藻場が回復し、CO₂吸収量が拡大しています。
- 除去したウニを畜養し販売する事業として取り組むことでウニ除去のインセンティブが生まれ、藻場の改善・CO₂吸収量の拡大につながりました。
- 近隣に世界最大のウニ畜養拠点を設立したことにより、今後活動を拡大します。



磯焼けを改善し豊かな海へ。



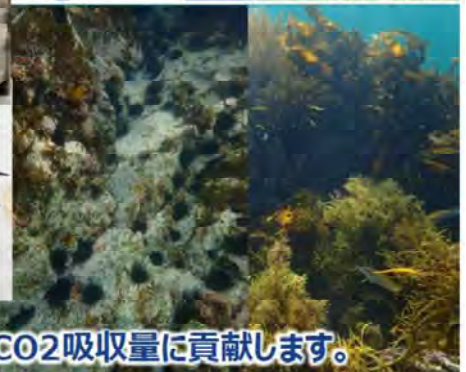
山口県下関市

角島

2021年5月6日
SPOT6衛星画像

◆プロジェクトの特徴・PRポイント

- 熱い漁業者の磯への思いと、新たなことへの挑戦で豊かな海づくりと、美しい海の保全、脱炭素社会の実現に貢献します。
- モニタリングに際しては一般社団法人モバイルラッコ隊と協力してより**精度が高く信頼性の高いデータの取得**を心がけました。
- 除去した厄介もののウニは新たな地元の特産品として地域振興にも役立てていきます。



山口の若手漁業者との協働で豊かな磯を取り戻す活動を加速し、CO₂吸収量に貢献します。

榛南地域における藻場再生プロジェクト

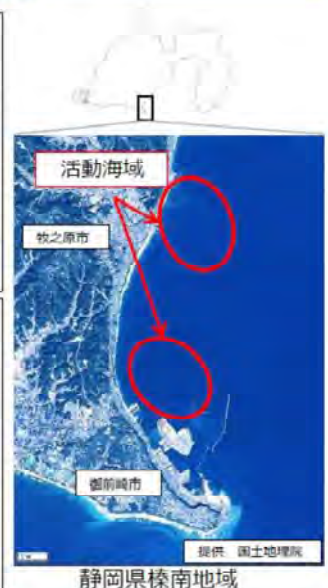
(榛南地域磯焼け対策推進協議会・榛南磯焼け対策活動協議会)

◆プロジェクトの概要

- 活動海域は静岡県**榛南地域**（御前崎市・牧之原市・吉田町の2市1町）です。かつては**国内最大級のカジメ・サガラメ藻場**が形成されていましたが、平成初期の磯焼けにより藻場が消滅してしまいました。
- 平成8年度に**南駿河湾漁協**（当時は榛南5漁協）と関係市町で榛南地域磯焼け対策推進協議会を組織し、藻場再生活動を開始しました。平成21年からは榛南磯焼け対策活動協議会も活動に加わり、**母藻投入・種苗移植・藻場回復状況のモニタリング調査・藻食性魚類の除去**等を実施しています。

◆プロジェクトの特徴・PRポイント

- これまでの活動により、**約870haのカジメ藻場を回復**しています。この結果、減少していた**貝類やアオリイカ等の回復**がみられているなど、本活動は、「**地球温暖化の抑制**」のみならず「**生物多様性の向上**」にも貢献します。
- さらなるカジメ藻場の回復と、地域の特産品だったサガラメの復活に向けた活動を拡大することで、「**地球温暖化の抑制**」や「**生物多様性の向上**」、さらに、20年前に途絶えてしまった潜水器漁業（アワビ漁等）の再開による「**水産振興**」を目指します。



静岡県榛南地域



母藻投入



種苗移植



ダイバーによる移植作業



回復したカジメ藻場

プロジェクト名：御前崎港久々生(くびしょう)海岸里海プロジェクト

●プロジェクトの概要

御前崎港（静岡県御前崎市・牧之原市）の西側に位置する久々生海岸では、港の造成に伴い、平成21年頃から徐々にコアマモ場が形成され始めましたが、ごみの漂着などでコアマモに十分な日光が届かず、光合成ができずに枯れてしまうおそれがありました。

この状況を打破するため、御前崎港のポートサポーターであるNPO法人が、平成30年10月からコアマモ場の保全活動を目的とした、ビーチクリーン活動や環境学習、自然体験活動等を継続して実施しています。

- 対象 コアマモ場（静岡県準絶滅危惧種）
- 申請者 静岡県、NPO法人Earth Communication



●プロジェクトの特徴・PRポイント

- ・NPO法人Earth Communicationを中心に、静岡県（御前崎港管理事務所）、国（中部地方整備局清水港湾事務所）らと協力してコアマモ場を創出・維持。
- ・NPO法人Earth Communicationが、高い防潮堤の外側であるために地元でもほとんど認知されていなかったコアマモ場を発見。
- ・この活動によるコアマモ場の創出・維持は、御前崎港が目指すカーボンニュートラルポートの形成にも貢献。
- ・ビーチクリーン活動は月に3～4回ほど開催、令和3年度は16,140Lのごみを回収。
- ・これまで地道に取り組んできた活動の認知度が徐々に高まり、賛同者・協力者を増やしています。

～魚庭の海の再生・阪南の海の再生～「海のゆりかご再生活動」

阪南市、NPO大阪湾沿岸域環境創造研究センター、尾崎漁業協同組合、西鳥取漁業協同組合、下荘漁業協同組合

プロジェクトの概要

- ◆ 子供たちがアマモ場保全活動を通じて豊かな大阪湾を実感し、**将来自慢できる海に！**との思いで、2006年より**行政・漁協・NPO・市民の多様な主体が連携**して小学校を支援し、今では1ha以上のアマモ場が**子供たちの手で保全**されています。
- ◆ 2018年の「**全国アマモサミット2018 in 阪南**」で各小学校が取り組みを発表しました。
(<http://www.hannannoumi.com/about>)
- ◆ 2019年の**G20大阪サミット配偶者プログラム「海は輝くいのちの源」**で、各小学校の**児童代表が活動の紹介と意見交換**を行ないました。
- ◆ アマモ場再生活動は、**阪南市内5つの小学校の全学年の海洋教育に発展**しました。
(<https://www.city.hannan.lg.jp/kakuka/syogai/gakko/1615283243604.html>)
- ◆ 多様な主体と連携して、**大阪・関西万博のプログラム「TEAM EXPO 2025」の共創チャレンジ**を実施しています。(<https://team.expo2025.or.jp/ja/challenge/472>)



プロジェクトの特徴・PRポイント

- ◆ アマモ場の保全・拡大、海洋教育の継続的推進が**子供たちを基点とした海洋環境保全の意識醸成**や周辺への拡大につながり、**生物多様性の向上**や**生物資源の増加**、**漁業を含めた地域の活性化**に結びつくと考えています。
- ◆ クレジットは、**小学校による継続的な活動を推進していくために活用**すると共に、**購入企業様の参画・参加による活動の活性化**にも期待しています。
- ◆ 阪南市の**自治体SDGsモデル事業とも連携**しています。
(<https://www.city.hannan.lg.jp/kakuka/mirai/promotion/SDGs/miraitosi/7114.html>)



プロジェクト名：大分県名護屋湾・磯守ブルーカーボンプロジェクト

ウニノミクス株式会社・株式会社大分うにファーム・NPO法人名護屋豊かな海づくりの会・ENEOSホールディングス株式会社

◆プロジェクトの概要

- 名護屋湾にはアオサ、マクサ等が繁茂しており、海産動物の生息場となっています
- 藻場はウニの食害を受けて減少傾向にあります。
- 食害の原因となっているウニの除去を行いました。そして、ウニを除去したことで藻場が回復しつつあり、CO₂吸収量が拡大しています。
- 名護屋湾では2007年8月以降、藻場のある豊かな磯を取り戻すために、地元の小学生と共に磯焼け対策を継続しています。本プロジェクトは取り組みの一部で、2021年9月からムラサキウニ除去による藻場の保全、再生に取り組んだものです。
- 除去したウニを畜養し販売する事業として取り組むことで、藻場の再生を加速させています。
- 今年度はウニの除去のみを対象にしてクレジット化を進めましたが、地元小学生や漁業者の方が積極的に藻場再生事業を取組んでいます。今後はウニ除去以外の藻場再生事業も協働して進めていければと考えています。



ウニの食害によって磯焼け状態となっている

◆プロジェクトの特徴・PRポイント

- 2007年から磯焼け対策、藻場の再生を積極的に取り組んでいます。
- モニタリングに際しては一般社団法人モバイルラック隊と協力してより**精度が高く信頼性の高いデータの取得**を心がけました。
- 除去した厄介ものウニは新たな地元の特産品として地域振興にも役立っています。



大分の豊かな磯を取り戻し、CO₂吸収量の拡大と地域振興に貢献します。

プロジェクト名：似島二階地区藻場造成・保全プロジェクト

プロジェクトの概要

- ・ 似島は広島湾南約3km沖にある、広島市最大の島です。戦時中は海外の戦場から帰国してきた兵士の検疫所として使われ、当時の遺跡・史跡を巡り歴史を学ぶことで、平和の尊さを肌で感じられる島です。また、カキ養殖が盛んに行われており、似島周辺にはおよそ250のカキ筏が島を取り巻くように連なっています。
- ・ 似島の南西部に位置する二階地区では、広島市漁業協同組合がカキ殻を活用した人工干潟を平成元年度に施工し、その後、その中に広島市が約5,000m²のアマモの移植を行いました。
- ・ アマモ場周辺にカキ養殖の抑制柵を設置し、カキの水質浄化機能により、アマモの成長を促しています。



プロジェクトの特徴・PRポイント

- アマモ場の保全活動を通じて、CO₂の吸収による地球温暖化の抑制だけでなく、カキのえさを増やし、多くの魚類・甲殻類の棲家になる等、豊富な海洋資源を持つ**瀬戸内海を豊か**にしています。
- また、令和2年度から、藻場ブロックを設置し、**新たな藻場の生育環境の創出**をはかる活動を行っています。
- 今後は、クレジットの収益も活用しながら、**アマモの移植**や**藻場ブロック設置**等による藻場の拡大・維持活動を実施し、ブルーカーボンによる脱炭素社会に貢献します。

